

体験者数18,000人超 感覚はずむ暗闇エンターテインメント「対話のある家」

「LOVE IN THE DARK カタチの無いものをみる」開催

今回初、初めて出会う人と暗闇体験をわかちあう「一期一会」ユニットも限定開催

積水ハウス株式会社は、情報発信拠点「SUMUFUMULAB（住ムフムラボ）」（グランフロント大阪）で定期開催しているダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン（本社：東京都中央区、代表：志村真介）との共創プログラム、ダイアログ・イン・ザ・ダーク（以下、DID）「対話のある家」第24回プログラムを、2月7日（木）から開催します。テーマはバレンタインデーにかかる開催時期にちなみ「LOVE IN THE DARK カタチの無いものをみる」。今回のプログラムでは、2013年の開設以来初の取り組みとして、おひとりでのお申し込みの方だけが参加できる「一期一会」ユニットを一部日程で特別開催します。実施に先立ち、1月17日（木）正午よりWEBでのチケット先行販売を開始します。



<これまで世界41か国以上で開催、800万人以上が体験したDID>

ダイアログ・イン・ザ・ダークは、1988年にドイツで哲学博士アンドレアス・ハイネッケが発案。これまで世界41か国以上で開催され、800万人を超える人々が体験している暗闇のソーシャル・エンターテインメントです。参加者は完全に光を遮断した空間の中へグループを組んで入り、暗闇のエキスパートである視覚障がい者のアテンドのもと、中を探検し、さまざまなシーンを体験します。その過程で、人の声の温かさ、対話の可能性の発見、視覚以外の感覚が育む「心地よさ」などに気づきます。DIDの魅力は体験した人にしかわからない体験価値にあり、「DID 対話のある家」来場者アンケートでは「また来たい」が86%、体験者数も累計18,000人を超えるなど、高い人気を得ています。

<暗闇だからこそ話せる、新感覚のコミュニケーション>

「対話のある家」は、個人で参加できる国内唯一の常設DID会場であり、世界で唯一「家」をテーマにしたDIDとして、2013年4月の開設以来、「僕たちの夏休み」「真っ暗の中での読書の秋」など毎回異なるプログラムを季節ごとに開催しています。第24回は、生きる上でとても大切でありながら日常は語ることの少ない「LOVE=愛」がテーマです。恋愛に限らず、私たちを取り巻くあらゆる関係性にあふれる「愛」を暗闇の住空間で掘り下げていきます。「一期一会」ユニットは、2月9日（土）、22日（金）、3月3日（日）各日11：00から。暗闇体験を楽しむために初めて出会う方々が、声をかけ合い、助け合い、いつしか本物の家族のような仲間になるひと時を提供します。

<感覚はずむ暗闇エンターテインメント「対話のある家」

第24回プログラム 「LOVE IN THE DARK カタチの無いものをみる」概要>

- 開催場所：グランフロント大阪 北館ナレッジキャピタル4階（大阪市北区大深町3番1号）
積水ハウス「SUMUFUMULAB（住ムフムラボ）」
- 開催期間：2019年2月7日（木）～4月8日（月）
＜一期一会の回＞ 2月9日（土）、22日（金）、3月3日（日） 各日11:00から
- 参加料金：大人3,500円／学生2,500円／小学生1,500円（税込）
- チケット発売：2019年1月17日（木）正午～
- 定休日：火曜日・水曜日
- 所要時間：70分
- 参加人数：各回6人まで
- 申込方法：予約状況確認・申込はWEBから <http://www.sumufumulab.jp/did/>
- 「対話のある家」お問い合わせ事務局：0120-39-9683（11:00～18:00 ※土日祝日除く）

<DIDと積水ハウスの共創プログラム「対話のある家」について>

積水ハウスは「生涯住宅」の思想のもと、長年にわたり「スマートユニバーサルデザイン」などの研究活動を続けてまいりました。その一環として、「感じる力」「関係性の回復」「多様性を認める」を目的に、対話する場を提供し続けるDIDとの共創プログラム「DID 対話のある家」を実施。「純度100%の暗闇」の中で、住まいにおける様々な生活シーンを体験し、日常では得られない気づきやコミュニケーション向上の機会を提供します。

さらに、ブランドビジョン「SLOW & SMART」を実現する、住まいの快適性を深化させる研究にも活かしてまいります。



見て触れて楽しめる
「DID 対話のある家」の展示コーナー

<これまでの開催実績>

- 開催日数：2013年4月26日から開始、開催日数は計992日間（2018年12月25日現在）
- 参加者数：18,342人／性別：男性40%、女性60%
- 年代：10代以下8%、20代29%、30代27%、40代22%、50代11%、60代以上3%
- クリスマス、お正月など、季節ごとに毎回異なるプログラムを開催。体験するたびに新しい発見が得られるとの声も多数いただいております。

<昨年の LOVE IN THE DARK プログラム体験者の声>

- 知らない方々と一緒に暗闇！？と不安でいっぱいでしたが、6人と、そしてアテンドと皆で家族として過ごして、人の優しさや物の大切さなどに気づき、家ってやっぱり良いものだ実感しました。この春から実家を出て生活するのですが、家族との時間をもっと大切にしようと思いました。（10代 女性）
- 見えていることが全てではないと改めて感じます。その人がどんなことに困難を感じているのか、何を求めているのか、あらゆる感覚を使って気付きたいと思います。この大切さをより多くの人に知っていただきたいと思いました。（20代 男性）
- 普段は周りの目や仕草を気にして、それがいかにもったいないことか実感しました。「愛」について話をしていく中で、自分の“心”をつかって話をしている感じがしました。貴重な経験を今後の教師人生で多くの子ども達に伝えていきたいです。（10代 男性）
- 暗闇はとても豊かな場所。アテンドのお陰で安心して探検できたし、テーマの「愛」を感じられるプログラムがとても良かったです。また来たい気持ちでいっぱいです。本当に心のコもったイベントだと思います。（女性）